

## 1. 環境チャレンジ目標2030



# 環境チャレンジ目標 エコチャレ2030

(※2018年策定)

目標年度：2030年度 2030年に向けた環境チャレンジ目標を策定し、取り組みを推進しています。

**チャレンジ1** 事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出量を半減！

2050年度には、90%削減を目指す！

**重点施策**

- 設備更新／車両更新
- 省エネチューニング
- 太陽光自家発電・自家消費
- 電気自動車・トラックの導入
- コープでんきへの切替

**チャレンジ2** 事業活動における食品廃棄物を半減！

**重点施策**

- 店舗廃棄重量削減
- フードバンク等への食品提供拡大
- 食品リサイクル率向上

---

**チャレンジ3** 環境に配慮したエシカルな商品やサービスの開発・供給推進！

**重点施策**

- 環境配慮型のエシカルな商品・サービスの開発・供給推進
- 地産地消の推進
- 容器包装の削減

**チャレンジ4** 組合員とともにエシカル消費を拡大！

**重点施策**

- エシカルな商品、エシカルな暮らしのあり方に関する学習・広報の推進
- 組合員とともにエシカル消費を拡大

## 2. 「環境チャレンジ目標2030」にもとづく2019年度計画

### <チャレンジ1> CO<sub>2</sub>排出量を半減！

- 太陽光の自家発電・自家消費を、新たにコープ西明石で導入。その他の導入可能性について継続調査
- コープでんきの供給事業所の拡大(民間PPS対象事業所および子会社の切替え)を検討
- 省エネチューニングの対象事業所を拡大(2018年度：61事業所→2019年度：コープ店全店舗)
- 営業車に電気自動車を導入(協同購入センター北神戸・西神戸・姫路東・高槻の4事業所)
- 設備更新の際、省エネ設備への切替えを促進

### <チャレンジ2> 食品廃棄物を半減！

- 「てまえどり」をはじめとする食品ロス削減運動を、組合員とともに全エリアへ水平展開できないか検討
- 店舗業態では、18年度の「もったいないプロジェクト」やロス削減の成果を踏まえ、店舗でのロス削減に向けた具体的な取り組みを継続して進める
- 店舗での管理日数切れ食品のフードバンク提供の運用徹底、および地域団体への提供拡大

### <チャレンジ3> 環境に配慮したエシカルな商品やサービスの開発・供給推進！

- 6月と10月のエシカル強化月間にエシカルな商品の企画・供給促進
- コープでんきの「地産地消」性の訴求、電源開発(ソーラーシェアリング等)
- 宅配業態が中心となって、コープでんき加入件数を拡大
- 2019年問題への対応として新サービスの開始に向けた準備

### <チャレンジ4> 組合員とともにエシカル消費を拡大！

- 「環境&福祉」の位置づけで、阪神友愛食品社員による「鳴尾浜リサイクルセンター」での組合員見学会の強化
- 古紙めむ・内袋(商品配達用ポリ袋・帳票袋)の回収強化
- 上記の回収品をプレスする「玉津リサイクルセンター」での組合員見学会の強化
- G20開催による脱プラスチックへの社会的関心の高まりを念頭に、改めてマイバッグ持参の呼びかけを強化。新加入時に呼びかけ用のオリジナルエコバッグ製作を予定(レジ袋代金の有効活用)
- 6/1に「脱プラスチック」をテーマにしたシンポジウムを開催
- 年2回のフードドライブ集中取り組みと並行し、回収ボックス常設化の事例(西宮市内)を水平展開

# CO<sub>2</sub>削減の取り組み



<https://eco.coop-kobe.net/ecolife/>

※URLをクリックすると関連情報が表示されます

単位：t-CO<sub>2</sub>

	合計	店舗	工場	宅配	物流	本部	子会社
2013年度	129,899	68,898	16,309	11,573	17,172	3,087	12,860
2016年度	116,721	64,100	15,318	11,753	9,070	3,526	12,954
A.設備・車両更新	-14,007	-7,826	-1,384	-2,254	-1,412	-204	-927
B.省エネチューニング	-3,869	-2,314	-655	-209	-82	-117	-492
C.太陽光自家発電・自家消費	-1,590	-795	-127	-418	0	-84	-167
D.電気自動車・トラックの導入	-89	-17	0	-38	0	-17	-17
E.コープでんきへの切替	-31,889	-23,186	-611	-1,670	-1,803	-1,018	-3,603
2030年度計画	65,276	29,962	12,541	7,165	5,773	2,087	7,748
2030年度計画/2013年度	50.3%	43.5%	76.9%	61.9%	33.6%	67.6%	60.3%

# 太陽光発電の取り組み



<https://eco.coop-kobe.net/generation/>

※URLをクリックすると関連情報が表示されます

## コープこうべグループが進める太陽光発電所一覧

	太陽光発電所	所在地	運転開始	出力規模 (kW)	年間予想発電量 (kWh)	世帯数換算(※) (世帯)
1	鳴尾浜	兵庫県西宮市	2013年 9月	825.3	833,770	231
2	稲美	兵庫県加古郡稲美町	2013年 9月	150.9	154,350	43
3	北神戸	兵庫県神戸市北区	2013年11月	258.0	259,833	72
4	姫路東	兵庫県姫路市	2013年11月	309.6	311,141	86
5	氷上	兵庫県丹波市	2014年 3月	305.3	292,280	81
6	高槻	大阪府高槻市	2014年 6月	257.0	254,131	71
7	三木三津田	兵庫県三木市	2014年 9月	2,590.0	2,494,904	693
8	あこや学園	兵庫県尼崎市	2015年 6月	26.4	28,355	8
9	西播磨	兵庫県たつの市	2015年 6月	508.1	611,171	170
10	神吉	兵庫県加古川市	2015年 6月	50.8	57,802	16
11	魚住	兵庫県明石市	2016年 2月	360.6	370,990	103
12	須磨	兵庫県神戸市須磨区	2016年 3月	234.5	238,693	66
13	尼崎	兵庫県尼崎市	2016年 3月	217.0	220,880	61
14	丹波	兵庫県丹波篠山市	2016年 3月	175.0	179,485	46
15	大王丹波	兵庫県丹波市	2016年 7月	501.2	535,679	148
16	箕面	大阪府茨木市	2016年 9月	178.5	179,485	49
17	淡路	兵庫県南淡路市	2016年12月	60.0	62,135	17
18	川西	兵庫県川西市	2017年 3月	50.0	48,226	13
19	西神戸	神戸市西区玉津町	2017年 6月	608.6	586,983	172
20	伊丹	兵庫県川西市久代	2017年 9月	241.3	234,251	65
21	豊岡	兵庫県豊岡市	2018年10月	207.36	199,540	55
22	神戸西	兵庫県神戸市西区	2018年10月	158.4	164,891	45
23	甲子園口	兵庫県西宮市二見町	2009年11月	20.0	25,000	6
24	生活文化センター	兵庫県神戸市東灘区田中町	2007年7月	30.0	30,110	8
25	住吉事務所	兵庫県神戸市東灘区住吉本町	2007年11月	3.4	6,650	2
	合計			8,327.2	8,380,735	2,327

(※)一般家庭の年間消費電力量を1世帯あたり3,600kWhとして算出



## 組合員からの回収量

(単位：kg)

回収品目	回収業態		2014	2015	2016	2017	2018
	店舗	宅配					
紙パック	○	○	329,933	324,458	320,420	307,783	308,615
飲料缶	○		293,795	281,140	258,441	261,338	247,695
発泡トレイ	○		187,959	183,913	171,359	161,132	157,306
ペットボトル	○		533,640	499,187	502,106	490,831	521,262
ペットボトルキャップ	○		-	-	28,195	28,388	31,674
透明トレイ・卵パック	○		108,686	113,275	116,975	121,804	128,316
卵パック		○	29,601	35,073	38,302	39,057	43,316
商品カタログ「めーむ」		○	5,429,221	6,315,724	6,614,308	7,054,323	7,942,317
商品配達用ポリ袋・帳票袋		○	80,724	87,650	83,767	102,018	120,441

## 使用済小型家電回収BOXの設置状況

コープこうべでは、行政の回収のしくみや要請に応じて、回収ボックスを設置しています。

行政区	回収開始	設置店舗名
神戸市	2014年 4月	コープリビング甲南
明石市	2012年11月	コープ西明石
	2017年10月	コープ大蔵谷
西宮市	2015年11月	コープ武庫川
	2015年11月	コープ北口食彩館
	2015年11月	コープ西宮東
	2017年 4月	コープ甲陽園
	2017年 4月	コープ西宮南
	2017年 4月	コープマリナパーク
	2017年 4月	コープ西宮北
高砂市	2016年10月	コープ高砂

### ※小型家電リサイクル法

使用済み小型家電に含まれる鉄やアルミ、レアメタルなどの貴重な資源の再資源化を目的とした「小型家電リサイクル法」に基づき、各自治体では使用済み小型家電の回収を進めています。回収した使用済み小型家電は、国の認定事業者によって回収・リサイクルされ、2020東京オリンピックのメダルに生まれ変わります。

※都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

## 2018年度

①リサイクル量		2,631.2t
店 舗	野菜・肉の加工くず堆肥化(コープ土づくりセンター)	630.3t
	肉の加工くず飼料化(外部委託)	410.4t
	魚アラの飼料化(外部委託)	
食品工場	バイオマス発電への投入	762.0t
	パン耳等の飼料化	777.1t
	おからの乾燥・飼料化	
	おからの乾燥(水分量)	
	製造くずの堆肥化(コープ土づくりセンター)	51.4t
②食品廃棄物の廃棄量		1,558.7t
リサイクル率 ①÷(①+②)		72.3%
食品リサイクル法上の再生利用等実施率		79.1%

※食品リサイクル法上の再生利用等実施率には、発生抑制量などが勘案されています。

### 1. コープ土づくりセンターでのリサイクルについて

神戸・三木・明石・芦屋・西宮市内の約40店舗から野菜と肉の加工くずを、また食品工場から製造くず(めんなど)を回収しています。回収した加工くずは、三木市にあるコープ土づくりセンターで、堆肥製造の原料として活用されています。

製造された堆肥は、土づくりセンターに隣接する(有)みずほ協同農園で使用され、収穫した農作物はコープこうべの店舗で供給されています。

### 2. 食品工場でのリサイクルについて

①豆腐製造の際に発生する生おからを乾燥し、飼料の原料として売却しています。この乾燥させる工程に必要な熱源として、工場が発生する廃食油を利用しています。

②おから以外の食品廃棄物を分解し、その過程で発生するメタンガスを取り出し、工場内の燃料として活用しています。

③製造過程で発生する一部の製造くず(めんなど)を、堆肥化しています(コープ土づくりセンター)。

## メタン化

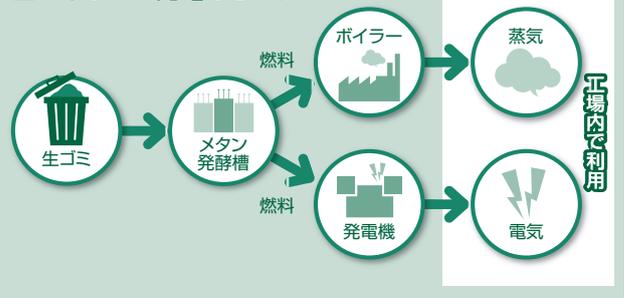
### 六甲アイランド食品工場のバイオマス発電

パンや豆腐などを製造する六甲アイランド食品工場では、メタン発酵を利用したバイオマス発電などにより、約97%の食品廃棄物をリサイクルしています。



バイオマス発電

#### ■バイオマス発電のしくみ



### コープ土づくりセンターの実績

年度		2014	2015	2016	2017	2018
食品残さ回収量(原料投入量)	トン	671	641	579	665	681
堆肥生産量	トン	293	226	234	141	100



※URLをクリックすると関連情報が表示されます

エコファーム利用者の推移

年度		2014	2015	2016	2017	2018
体験農園(貸し農園)区画数	区画	300	285	260	239	217
エコファーム講座参加者数(のべ)	人	274	201	209	219	31
マイファーム(ミニ農園オーナー制)参加家族数(のべ)	家族	1,124	1,120	910	688	534
視察学習訪問者数(のべ)	人	1,912	1,517	1,994	1,245	848
エコファームくらぶ(ボランティア)参加者数	人	36	68	65	59	44

3Rの推進【マイバッグ運動】



※URLをクリックすると関連情報が表示されます

1. マイバッグ運動の成果

		2014	2015	2016	2017	2018
持参率	%	86.7	87.0	86.9	86.8	89.9
節約枚数	枚	74,314,847	74,516,790	72,895,804	72,661,742	75,132,824
原油節約量(200ℓのドラム缶に換算)	本	7,023	7,041	6,889	6,867	7,100

2. レジ袋代金とエコシール寄付金の使途

(第1地区～第7地区)

2018年度に活用したレジ袋代金 38,596,805円	
2018年に活用したレジ袋代金の内訳は、下記の通りです。	
項目	金額
● コープの森・社家郷山の森林整備による生物多様性保全及び食、くらしと環境のつながりの体験学習推進。 ● 地域での活動を支える基盤づくりのために、西宮市や近隣の学校等と連携強化。	2,738,646円
● 「ひょうご地魚推進プロジェクト(とれびち)」「兵庫地場野菜振興プロジェクト(とれしゃき)」を通じ、 食べものと食文化、生態系・環境とのつながりに気づき、広める取り組みを支援。 ● 地区単位で体験的学習のフィールドを設定して行っている活動への支援。	1,598,563円
● エコファームの「食と環境」視点を大切に学習プログラムの充実と展開	519,430円
● 大阪北地区を中心としたマイバッグ運動ステップアップ浸透のための学習及び告知	549,598円
● 「地域や組合員とともにすすめるエネルギー事業」推進のための組合員学習	353,738円
● コープ甲子園口の壁面緑化のメンテナンス	363,960円
● 容器包装のリサイクルに必要な費用の一部に充当する。	25,658,021円

※第1地区～第7地区では、レジ袋が必要な場合、1枚5円をお支払いいただいています。

(大阪北地区)

2018年度に活用したエコシールの寄付金 1,290,074円	
2018年に活用したエコシール寄付金の内訳は、下記の通りです。	
項目	金額
環境分野「小・中学校にエコベンチ31台を寄贈」	884,520円
福祉分野「6カ所の福祉施設に10万円を上限に備品を寄贈」	405,554円

※大阪北地区では、マイバッグをお持ちいただいた方にエコシールをお渡しし、エコシール20枚につき、100円分を「環境分野と福祉分野への寄付金への積み立て」あるいは「お買い上げ金額からの値引き」のいずれかを選んでいただくことができます。  
※2018年8月から全店「レジ袋の無料配布中止・有料化」により、エコシールの運用は中止しました。

### 3. 行政や消費者団体とのレジ袋削減協定

	行政区名	締結年月日	三者協定締結日	他社	協 定 名
1	神戸市	2006年12月27日	2007年12月22日 (2011年12月22日更新)	●	レジ袋削減に向けた取り組みに関する協定
2	西脇市	2007年3月13日			マイバッグ運動の取り組みに関する協定
3	三木市	2007年3月29日	2009年1月16日 (2009年1月16日更新)	●	マイバッグ運動の取り組みに関する協定
4	明石市	2007年5月22日	2011年11月25日	●	マイバッグ運動の取り組みに関する協定
5	豊岡市	2007年5月25日			レジ袋削減の取り組みに関する協定
6	姫路市	2007年5月29日	2008年9月1日	●	姫路市におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定
7	相生市	2007年5月30日	2008年7月20日	●	マイバッグ運動の取り組みに関する協定
8	芦屋市	2007年5月31日			レジ袋削減に向けたマイバッグ運動の取り組みに関する協定
9	西宮市	2007年6月25日	2011年3月24日 (2015年4月1日更新)	●	西宮市レジ袋の削減等に関する協定
10	丹波市	2007年7月10日			レジ袋削減に向けた取り組みに関する協定
11	稲美町	2007年7月12日	2016年6月3日	●	稲美町におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定
12	三田市	2007年8月24日	2008年12月15日	●	三田市におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定
13	加古川市	2008年1月26日	2008年1月26日 (2015年11月17日更新)	●	加古川市におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定
14	上郡町	2008年3月3日	同左	●	マイバッグ持参運動推進の取り組みに関する協定
15	たつの市	2008年8月8日	同左	●	レジ袋削減に向けた取り組みに関する協定
16	尼崎市	2008年10月3日	同左 (2015年2月19日更新)	●	尼崎市におけるレジ袋削減等に関する環境協定
17	加西市	2009年8月24日	同左	●	加西市におけるレジ袋削減等に向けた取り組みに関する協定
18	宝塚市	2011年4月13日	2011年4月13日	●	レジ袋の削減等に関する協定
19	播磨町	2016年2月19日	同左	●	播磨町におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定
20	豊中市	2019年3月26日		●	北摂地域におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定
21	池田市	2019年3月26日		●	北摂地域におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定
22	箕面市	2019年3月26日		●	北摂地域におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定
23	吹田市	2019年3月26日		●	北摂地域におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定
24	高槻市	2019年3月26日		●	北摂地域におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定
25	茨木市	2019年3月26日		●	北摂地域におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定
26	摂津市	2019年3月26日		●	北摂地域におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定
27	能勢町	2019年3月26日		●	北摂地域におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定
28	豊能町	2019年3月26日		●	北摂地域におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定
29	島本町	2019年3月26日		●	北摂地域におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定

※豊中市(2008年4月13日)、吹田市(2009年10月2日)に締結されていた協定は、2019年3月26日の北摂地域のマイバッグ協定に包含される。  
2019年4月現在締結自治体数：23市6町



1.2018年度コープの森・社家郷山での活動参加人数

区分	月日	内容	参加人数	
組合員向け学習イベント	エコひろば ～自然との接点をつくる 導入プログラム	2019年 1月20日(日)	里山の生きもの調査隊!冬鳥を観察しよう	9
	遊ぼう屋 ～食農、循環、生物多様性を学ぶ ステップアップ・プログラム	5月6日(日)	里山のくらし探検隊	24
		5月20日(日)	四季の道ハイキングとBBQ	43
		7月16日(月・祝)	フレッシュ夏野菜でピザ作り!	29
		8月5日(日)	里山昆虫大捜査線&標本づくり	20
		10月14日(日)	芋ほりと恵みの水を迎えるハイキング	21
		11月11日(日)	ぎょぎょ里山で海の幸を野外調理	27
		12月2日(日)	落ち葉かきと焼き芋体験	55
	2019年 3月6日(水)	里山学び体験隊	4	
ボランティア育成	都市型里山ボランティアによる 里山の保全・整備活動	4月25日(水)	四季の道森林整備	7
		4月28日(土)	キャンプ場西側森林整備	10
		7月11日(水)	四季の道下草刈り	8
		9月19日(水)	キャンプ場西側森林整備	6
		10月17日(水)	チェーンソー講習(フォローアップ研修)	7
		10月26日(金)	キャンプ場西側循環型里山づくり	7
		11月7日(水)	キャンプ場西側循環型里山づくり	6
		11月25日(日)	キャンプ場西側循環型里山づくり	6
		2019年 1月30日(水)	キャンプ場西側循環型里山づくり	6
		2月24日(日)	キャンプ場西側循環型里山づくり	9
		3月9日(土)	キャンプ場西側循環型里山づくり	11
		3月23日(土)	次年度計画づくりミーティング	27
	職員ボランティアによる 里山の保全・整備活動	4月15日(日)	四季の道ハイキング道点検	11
		6月17日(日)	六甲保養荘側入り口付近の除伐、除草	10
		7月15日(日)	コバノミツバツツジひろばの整備(レンジャーくらぶ合同)	6
		9月16日(日)	六甲保養荘側入り口付近の除草	6
		12月9日(日)	ボランティア交流～防災観点で整備を考えるミニ学習、 四季の道散策、持ち寄り食材で野外調理	10
		2019年 2月17日(日)	コバノミツバツツジひろばの整備(レンジャーくらぶ合同)	6
調査活動	5月25日(金)	都市型里山ボランティア調査活動	11	
	7月20日(金)	都市型里山ボランティア調査活動	13	
	11月16日(金)	都市型里山ボランティア調査活動	9	
	2019年 1月25日(金)	都市型里山ボランティア調査活動	9	
地区や地域で企画した イベント・学習活動	4月22日(日)	レンジャーくらぶイベント「ツツジ咲くしゃげごう山で遊ぼうよ!」	9	
	10月14日(日)	レンジャーくらぶイベント「さわやかな秋の里山へ『しゃげごう山ハイキング』」	17	
	11月18日(日)	レンジャーくらぶイベント「秋色に染まった美しい里山へ!しゃげごう山を歩こう」	5	
	11月7日(水)	農とくらしをつなぐサポーター養成講座(コープの森活動の学習)	16	
	2019年 1月16日(水)	農とくらしをつなぐサポーター養成講座(森林体験)	11	



## 1. 助成団体および助成総額

		2014	2015	2016	2017	2018
助成団体	団体	24	21	19	22	24
助成総額	千円	3,000	2,680	2,570	3,000	3,000
信託財産残高	千円	374,227	372,202	370,852	368,842	367,201

## 2. 2018年度の助成団体 ★：2018年度にはじめて助成を受けた団体

### ■自然環境保全に向けた実証的調査・研究部門・・・1団体

	団体名	活動内容／助成対象
1	★兵庫県立三木山森林公園管理事務所	2017年度策定の「三木山森林公園 森づくり実施計画」に示される新たな森林整備手法(高齢林の若返り、低木管理)の効果検証のベースとなるデータを収集。県内の里山林保全のモデルケース提示をめざす。 *講師謝金、調査備品に活用。

### ■自然環境保護および啓発の実践活動部門・・・23団体

	団体名	活動内容／助成対象
1	★下若井の里山を守る会	加西市内の里山の尾根沿いを皆伐して「ひょうご元気松」を植栽。生物多様性を図るとともに、地元と都市住民の交流を深める。 *整備用具、燃料等消耗品に活用。
2	高砂海浜公園海辺の保全集いの会	県立高砂海浜公園の海辺でヘドロの原因となる「アオサ」を市民参加イベントで回収し、たい肥に。干潟の生き物観察も行う。 *漁船借り上げ、送迎バス代に使用。
3	よこおみち森もりの会	神戸市須磨区横尾地区…野路菊育成、低木植栽、雑木林・竹ヤブ整備。友が丘地区…竹林道保全、「つつじの森づくり」に向けた植栽。 *整備用具、安全講習受講等に使用。
4	兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会	数少ない生息地である八千高原で、幼虫の食草であるオミナエシの植栽、幼虫の飼育・放蝶及び生息地の草刈り、シカ害対策を行う。 *シカ柵・飼育ゲージ資材、種・苗代に使用。
5	須磨ふるさと生き物サポーター	神戸市須磨区で在来種の生息環境を整備し、自然繁殖できる環境づくりを行う。生き物観察、繁殖飼育など地元住民とともに活動。 *標本製作、飼育採取用具に使用。
6	多紀連山のクリンソウを守る会	多紀連山に自生するクリンソウ群生地保護のため、つたや障害樹木を伐採。自生地及び周辺の生育状況の定点観察を行う。 *遊歩道の整備資材、講師謝金、参考図書購入等に活用。
7	六甲山を活用する会	六甲山の里山再生モデル地域の啓発拠点「まちっ子の森」整備、アセビ伐採による森林再生状況の追跡と効果検証。 *調査関連用具、講師謝金、教材作成に活用。
8	★ヤッホの森湿地を育む会	たつの市にある、放置されて陸地化がすすむ湿地の不要植物除去、周辺森林の除伐により、貴重な動植物を保全。 *整備用具・燃料、シカ柵資材等に利用。
9	身近な自然とまちを考える会	川西市内にある猪名川水域にある水辺回廊の保全により、子ども、市民の体験学習および憩いの場づくりを行う。 *オオムラサキ飼育用具・資材、観察・調査備品に活用。
10	自然と文化の森協会	兵庫県レッドデータブック記載の猪名川自然林保全のため整備・清掃を行う。自然観察会などを通じ、地域住民の啓発に取り組む。 *肥料、講師謝金、会場費等に使用。
11	武庫川流域圏ネットワーク	安全・安心で魅力ある武庫川づくりをめざし、河川清掃活動&学習、外来植物駆除、流域で活動する他団体との交流を行う。 *河川清掃用具、講師謝金、パンフレット類印刷等に活用。
12	NPO法人たつの・赤トンボを増やそう会	童謡「赤とんぼ」に歌われるアキアカネ。生育環境保全による復活の兆しを「ふるさと巡りツアー」、観察会などで周知。 *講師謝金、ツアー・調査バス代に使用。
13	ブルーアンドグリーンネットワーク	森から海に流れる「水」を介して自然環境の重要性や役割を伝えるため、海岸の動植物生息調査、見学会などを行う。 *マップ作成・調査関係資材等に活用。
14	神戸生物クラブ	自然観察、飼育栽培方法の学習、採集物の鑑定などを体験し、幼少期から自然と親しむことを通じ、生物多様性への関心を醸成。 *ガイドブック、チラシ作成に活用。
15	鴨庄オオムラサキ飼育の会	丹波市鴨庄川流域で、荒廃山林の整備と利活用を図ることにより、準絶滅危惧種オオムラサキの生息環境を保全。 *除伐資機材、講師謝金、マップ作成費に使用。
16	丹波地域のホトケドジョウを守る会	丹波地域の数カ所ではしか生息が確認されていないホトケドジョウ保全を目的に、モニタリング調査、堆積土砂除去を行う。 *検査試薬、生息地補修備品等に活用。
17	北播磨自然観察サポーターチーム おおばこの会	小野市内の希少な動植物の生息調査、自然保護と伝承を担う人材の育成、次世代を担う子どもへの啓発活動を行う。 *観察用資材、会場費等に使用。
18	兵庫丹波オオムラサキの会	オオムラサキ舞う里山をめざし、生息調査継続によるマップ精度向上、学校の環境学習支援、増殖・放蝶活動に取り組む。 *飼育ゲージ資材、幼虫調査に使用。
19	特定非営利活動法人日本ハンザキ研究所	国の特別天然記念物オオサンショウウオ保全のため、生息環境、良好な孵化条件のモニタリング調査、個体確認を行う。 *調査員の宿泊費・交通費に使用。
20	東お多福山草原保全・再生研究会	六甲山系のススキ草原の再生・維持管理、多様性保全のための地上植物刈取り、モニタリング調査による効果検証。 *整備用具消耗品・燃料、資材運搬費に活用。
21	★長谷口ミツガシワ湿地保存会	新温泉町で2003年に発見された希少種ミツガシワ保全のため、ヨシの刈り取り、シカ害からの保護柵設置をすすめる。 *除草用具、電気柵資材に使用。
22	淡路東浦ため池・里海交流保全協議会	漁業資源を豊かにするため、ため池管理者と漁業者が連携したかいぼり(池の清掃)を行うとともに、小学生の環境学習フィールドを提供。 *かいぼり用具、鯉の稚魚購入に活用。
23	★あびき湿原保存会	加西市の生物多様性の維持に資する生態系を保全。植生、地下水の水質調査を行う地元の学校と連携し、不要動植物の除去、散策路の整備を行う。 *整備用具、肥料等に使用。

# コープこうべ環境保全のあゆみ

	社会の動き	コープこうべの考え方と体制づくり	くらしの見直し活動や地域での活動	商品開発・普及、包材削減の取り組み	リサイクルの取り組み	事業活動から発生する環境負荷削減の取り組み	
70年代	1971	環境庁設置					
	1972	国連人間環境会議		田舎娘粒状せっけんを開発			
	1975				空ビン回収システムを整備		
	1977			根菜類13品目のトレイ包装を廃止			
	1978			<b>買い物袋再利用運動を開始</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>食品容器包装フィルムを塩ビからポリエチレンに変更</li> <li>全店舗の野菜・果物売り場でノートレイを実施（一部品目を除く）</li> </ul>			
1979	滋賀県「琵琶湖の富栄養化防止条例」公布						
80年代	1981			<ul style="list-style-type: none"> <li>有リン洗剤の取り扱いを中止</li> <li>せっけんキャンペーンを開始</li> <li>卵パックを塩ビからポリエチレンに</li> </ul>			
	1982		排水チェック活動を開始				
	1984				全店でボタン電池の回収を開始		
	1986		第1回琵琶湖親子見学会を実施				
	1988				タルク入りトレイ(CTFトレイ)の導入		
1989	フロン全廃宣言採択(ヘルシンキ会議)	<ul style="list-style-type: none"> <li>総代会で「くらしの見直し」と地球環境を守る取り組みを強める」特別決議を採択</li> <li>環境問題対策会議を設置</li> </ul>				食品工場にコジェネシステムと排水処理・有効利用設備を導入	
90年代	1990		<b>コープの環境月間スタート</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境統一マーク商品の供給を開始</li> <li>水畜産トレイ包装商品の袋包装への切り替え開始</li> <li>フロンガス使用のスプレー式商品の取り扱いを中止</li> </ul>	<b>牛乳パックリサイクルが本格的にスタート</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チラシ、包装紙、コピー紙、レシートなどの再生紙化を実施</li> <li>業務用コンピューター用紙などの回収を開始</li> </ul>	
	1991	環境問題推進室設置	買い物袋再利用運動から買い物袋持参運動に	<ul style="list-style-type: none"> <li>フードプラン第1号商品開発</li> <li>環境統一マーク商品にサブマークを導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>飲料用アルミ缶、スチール缶、トレイ、ペットボトルのリサイクル開始</li> <li>クリーニングコーナーのハンガー回収を開始</li> </ul>		
	1992	環境と開発に関する国連会議(地球サミット)開催		<ul style="list-style-type: none"> <li>環境測定活動スタート</li> <li>公益信託「コープ環境基金」を設立</li> </ul>			
	1993	環境基本法成立					生産事業部がタービンで自家発電開始
	1995	容器包装リサイクル法成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境マネジメント・環境監査システム本格スタート</li> <li>組合員の環境委員会発足</li> </ul>	買い物袋持参運動拡大(必要な方は1袋5円で購入いただく方式に)		リサイクル推進功労者表彰で「通産大臣賞」を受賞	店舗の生ゴミを回収し堆肥を作る実験スタート
	1996	ISO14001が発効	総代会特別決議として「環境憲章」を採択		<ul style="list-style-type: none"> <li>冷蔵庫からのフロン回収を開始</li> <li>通いコンテナ導入実験を開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクル制服を採用</li> <li>タルク入りトレイの再生原料を利用した買い物かご導入(~2002)</li> </ul>	
	1997	地球温暖化防止京都会議(COP3)開催	環境報告書が環境アクションプラン大賞(環境庁長官賞)受賞		小型焼却炉取り扱い自粛	コープミニ全店で5品目回収開始	芦屋市、尼崎市、伊丹市の店舗の魚箱リサイクル開始
	1998	家電リサイクル法成立	コープ武庫之荘ISO14001取得	コープグリーンロード運動をスタート	コープラップ(塩化ビニリデン製)取り扱い中止		<ul style="list-style-type: none"> <li>コープ土づくりセンター完成(全店舗にてゴミの計測開始)</li> <li>(有)みずほ協同農園発足</li> <li>ディーゼル車のガソリン車への切り替え完了</li> <li>地球温暖化防止活動大臣表彰(低公害車部門)</li> </ul>
	1999		<ul style="list-style-type: none"> <li>総合品質管理室設置</li> <li>食品工場ISO14001取得</li> </ul>		塩素系の食品ラップの取り扱い中止		エコファーム施設の完成

	社会の動き	コープこうべの考え方と体制づくり	くらしの見直し活動や地域での活動	商品開発・普及、包材削減の取り組み	リサイクルの取り組み	事業活動から発生する環境負荷削減の取り組み	
2000年代	2000	・循環型社会形成推進基本法が成立 ・食品リサイクル法が成立	全事業活動でISO14001取得	・虹っ子「エコチャレンジプログラム」をスタート ・マイかご、無料レンタル袋制度の導入	着物リサイクルショップ「結」スタート	協同購入の商品情報紙「めーむ」の回収をスタート	
	2001	環境庁が環境省となる	第一次環境中期計画策定			協同購入で卵パック回収をスタート	・エコファームを本格オープン ・協同購入センター加古川にLPGスタンド設置
	2002		・食品工場ISO14001更新 ・環境推進室設置	・エコファームでマイファーム、エコファームクラブ開始 ・炭素税に対する見解まとめる ・環境学習ボランティア活動開始	食の環境配慮基準策定		・本部エコワーキングスタイル運動開始 ・「第8回全国環境保全型農業推進コンクール」の大賞受賞（みずほ協同農園）
	2003		全事業でのISO14001の更新	・虹っ子エコ&フードチャレンジプログラムスタート ・コープEARTくらぶが2カ所で立ち上がる		協同購入で卵パック回収を休止	食品工場の廃棄物処理設備完成
	2004		第二次環境中期計画策定	・環境省の「地球環境美化功績賞表彰」受賞 ・電気削減運動を開始		協同購入で卵パック回収を再開	・コープこうべの自主行動計画策定 ・農林水産省の「2004年度バイオマス利活用優良表彰」でバイオマス活用協議会会長賞受賞
	2005	京都議定書発効	ISO14001の環境マネジメントシステムを食品工場と統合	エコチェックキャンペーン全地域で展開	・(有)みずほ協同農園の大根が「三木市議会議長賞」受賞 ・フードプラン管理規定の策定	協同購入・個人宅配の配送時に使用する内袋回収スタート	・食品工場のバイオマス利活用の取り組みが「ひょうごバイオマスecoモデル」第1号に認定 ・ライトダウンキャンペーン6店舗で試行
	2006		・総代会で「マイバッグ運動の推進とくらし見直しに関する」特別決議採択 ・全事業活動でのISO14001更新	レジ袋のレジ精算スタートに向け、8店舗で先行実施		協同購入・個人宅配の帳票袋回収スタート	・ライトダウンキャンペーン全店規模で実施 ・コープ土づくりセンターと子会社の(株)協同食品センターが「平成18年度ひょうごバイオマスecoモデル」に認定
	2007		第三次環境中期計画策定	・レジ袋のレジ精算、食品を扱う150店舗で実施 ・容器包装3R推進環境大臣大賞最優秀賞受賞	コープスお買い物バッグの開発		
	2008	・京都議定書第一約束期間スタート ・G8環境大臣会合が神戸で開催		・組合員から募集したエコメッセージをG8環境大臣会合に合わせて発信 ・兵庫県、西宮市と企業の森づくり協定締結			バイオディーゼル燃料の取り組みを開始
2009			コープの森・社家郷山の活動方針が「保全活動推進委員会」で決定			省エネ活動の徹底によるCO <sub>2</sub> 削減の取り組みを、一部の店舗で実験的に開始	

	社会の動き	コープこうべの考え方と体制づくり	くらしの見直し活動や地域での活動	商品開発・普及、包材削減の取り組み	リサイクルの取り組み	事業活動から発生する環境負荷削減の取り組み	
2010年代	2010	生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が愛知で開催		<ul style="list-style-type: none"> <li>フードプラン20周年</li> <li>地産地消推進のためコープスに兵庫県産品をアピールするロゴ“ひょうご発”を導入</li> <li>飼料米を使った「穂の実りたまご」開発</li> </ul>	店舗で卵パック・透明トレイの回収スタート	<ul style="list-style-type: none"> <li>コープ神吉を省エネのモデル店舗としてリニューアルオープン</li> <li>コープミニ御影北の店内照明すべてを実験的にLED化</li> <li>省エネ活動の徹底によるCO<sub>2</sub>削減の取り組みを全店展開</li> </ul>	
	2011	東日本大震災発生	創立90周年を迎え、大阪北生活協同組合と合併・新生コープこうべスタート。大阪北地区が加わり、7地区体制になる	電力不足問題に対して夏と冬に省エネの学習会を開催		夏場の節電対策を強め、年間を通じて全事業所で省エネルギー、CO <sub>2</sub> 削減の実施	
	2012	再生可能エネルギーの固定価格買取制度開始	「共に生きる、未来につなげる」を基本方針として、将来のあるべきコープこうべの姿を模索する「次代コープこうべづくり」プロジェクトをスタート			住吉事務所が関西広域連合エコオフィス大賞「節電の励行部門賞」を受賞	
	2013			シンポジウム「『コープの森・社家郷山』の魅力は高まったか?」開催	アルミ付紙パックの回収スタート	<ul style="list-style-type: none"> <li>コープ武庫之荘が省エネ型店舗としてリニューアルオープン</li> <li>鳴尾浜配送センターで太陽光発電事業を開始</li> </ul>	
	2014		ISO14001の認証を返上し、自主運用に切り替え		<ul style="list-style-type: none"> <li>子会社の株式会社ゆうあいサポートで店頭回収のペットボトルのプレス作業開始</li> <li>玉津リサイクルセンター稼働（宅配の商品情報紙「めーむ」の圧縮作業を開始）</li> </ul>	雑がみの分別回収を全店展開	
	2015	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs採択</li> <li>パリ協定採択</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>第3回食と農林漁業の食育優良活動表彰「農林水産大臣賞（企業部門）」を受賞</li> <li>「おおさか環境賞」の準大賞を受賞</li> <li>コープの森・社家郷山が環境省「生物多様性保全上重要な里地里山」（500箇所）に選定</li> <li>みんなの牧♥里プロジェクトの取り組み開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペットボトルのキャップの回収開始</li> <li>宅配返品商品のフードバンク関西への提供開始</li> </ul>	再生可能エネルギーを利用する電力供給事業を開始（コープこうべの42事業所に電力供給）	
	2016	<ul style="list-style-type: none"> <li>電力小売全面自由化</li> <li>熊本地震発生</li> </ul>				玉津リサイクルセンターで、宅配の商品配達用ポリ袋の圧縮作業を開始	再生可能エネルギーを利用する電力供給事業を拡大（コープこうべの88事業所に電力供給）
	2017			店舗でのフードドライブを初めて実施	エシカル消費の推進をスタート	鳴尾浜リサイクルセンター稼働	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギー電力を含む「コープでんき」を組合員に供給する電力小売事業を開始</li> <li>協同購入センター伊丹がスマートKCとして稼働</li> </ul>
2018	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪北部地震発生</li> <li>西日本豪雨発生</li> <li>国連気候変動枠組条約第24回締約国会議（COP24）がポーランドのカトヴィツェで開催</li> </ul>	環境チャレンジ目標「エコチャレ2030」策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪北地区でレジ袋の無料配布を中止</li> <li>不要になった羽毛（ダウン）回収開始</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>店舗の管理日数切れ商品をフードバンクへの提供開始</li> <li>脱プラプロジェクトチームの発足</li> <li>太陽光発電の「自家発電・自家消費」の事業所を拡大</li> </ul>	